



枕崎市火之神岬町大迫の海蝕双橋

枕崎市火之神岬大迫の海岸には、まるで二つの橋が架かっているように見える不思議な形をした岩があります。この橋を形づくる二つの大きな穴（洞門）は、岩の割れ目に波が当たって削られてできたもので、高さは両方とも約6mもあります。

このような天然の双橋は、日本唯一の貴重な自然の造形物であり、学術的にも大変貴重なものです。平成29年4月21日に枕崎市で初めて、県の天然記念物に指定されました。

「続けることの大切さ」

館長 中間 弘

先日開催した博物館まつりで、幼稚園児を連れて参加して下さったお父さんから「もう4年連続で参加しているけど、毎回楽しいですね。」という嬉しい言葉をいただきました。

「博物館まつり」は、博物館の持つ機能全てを一堂に示して体験して、博物館を身近なものに感じていただくことを主眼とし、併せて、参加していただいた皆さんが自然に親しみを感じ、進んで自然と触れ合う機運作りを支援することを目指しています。

年一回の取組ではありますが、これを契機に博物館の講座等を活用しながら自然に親しみつつ、自然を、そして科学を学ぼうとする心を育

成することに貢献できれば幸いです。今年で8回目を迎えましたが、目を輝かせて生き物や化石に触れてくれる子供たちがいる限り、まだまだこのイベントを続けていきたいものだと感じます。

ただ、「伝統だから」「毎年やっているから」という惰性的なものではなく、来てくださる方々のニーズを測り、より楽しんでもらえるものを、自然科学への興味関心の扉を開けるものを提供できるよう、工夫と改善を図りながら続けていくことが使命といえるでしょう。虫や化石に目をキラキラさせる子供が一人でも増えてくれることを願っています。

蔵出し博物館「人里の鳥獣」

ふだんは収蔵庫に保管されている膨大な資料の中から、テーマに沿った標本などを選んで展示する企画展、それが「蔵出し博物館」です。今年度は「人里の鳥獣」をテーマに、平成29年9月30日(土)から11月26日(日)までの間、本館1階で開催します。

身近にいる動物でも、野外で観察する機会は、滅多にないものです。よく似た動物を野外で識別することは、さらに難しくなります。例えば、県内にはニホンイタチとシベリ



ニホンイタチ

アイタチの2種のイタチがいます。この2種を野外で識別することは困難ですが、実際に標本を見比べれば、体型などの特徴で見分けられるのです。

また、県内でも最近確認されている外来種のアライグマも、ホンダヌキやアナグマと見比べて、違いを知っておきたいものです。このように、変わりつつある身近な動物たちについても展示します。



アライグマ (剥製標本)

企画展「国際宇宙ステーションに一番近い県」

宝山ホール4階の県立博物館別館では、11月18日(土)から12月30日(土)に企画展「国際宇宙ステーションに一番近い県 鹿児島」を実施します。

国際宇宙ステーション (ISS) を実際に見たことはありますか？ ISSは地上約400km上空を秒速約8 kmというライフル銃の弾よりも速いスピードで移動していますが、タイミングが合えば、県内の色々な場所で見ることができます。

このISSに日本の物資を運んでいるのが宇宙ステーション補給機「こうのとり」



種子島ロケットセンターから打ち上がるH-II B

です。鹿児島県種子島からH-II Bロケットに搭載されて打ち上げられています。ですから、鹿児島県はISSに一番近い県と言えるのです。

この企画展では、ISSや「こうのとり」について紹介するとともに、鹿児島県上空を通過するISSの様子を写真や動画で紹介したり、その探し方を紹介したりします。

是非、この企画展をご覧になって、実際に自分の目で上空を通過するISSを探していただければと思います。



開聞岳の上空を通過するISS

本館3階展示室がリニューアルします！

平成3年2月に3階「自然史応用展示室」がオープンして以来、25年以上経ちました。この度、3階の展示を大幅に入れ替えるリニューアルを行います。

下の図は完成予想図の一部です。今回のリニューアルでは「標本を見る」「本物を感じる」ことに重点を置き、今までに博物館が収集・収蔵してきた標本などを、たくさん展示することを目標にしています。

南北600km、海中から山頂まで、豊かな生物多様性を誇る鹿児島県のような生きものや岩石・化石など、本物を間近に見られる空間を作り出します。どうぞご期待ください。

なお、これに伴い3階展示室及び3D劇場は、平成29年11月28日よりしばらくの間閉鎖します。現在、平成30年4月末リニューアルオープンに向けて、鋭意作業中です。



移動博物館でじっくり観察

平成29年6月7日から8日に、南薩養護学校にて移動博物館を開催しました。

県立博物館では、毎年1か所、特別支援学校を会場に、移動博物館事業を実施しています。普段鹿児島市内の博物館まで出向く機会の少ない児童・生徒に、「鹿児島県自然」「本物を見る感動」を届けようと、実施するものです。

2トントラックで運び込んだ昆虫標本や動物のはく製に、子供たちは興味津々です。思い思いの距離感で標本に接し、博物館職員に質問したり友達と相談したりして、楽しく過ごしてくれまし



た。生きたイモリとふれ合うコーナーでは大騒ぎしながら、普段見ることのない生きものをじっくりと観察してくれました。



液体窒素を用いた演示実験では、空気の体積がとて小さくなるなど、マイナス196℃の世界で起こる不思議さを感じてもらいました。

平成30年度は、出水養護学校を訪問して実施する予定です。

鹿児島で発見された新鉱物

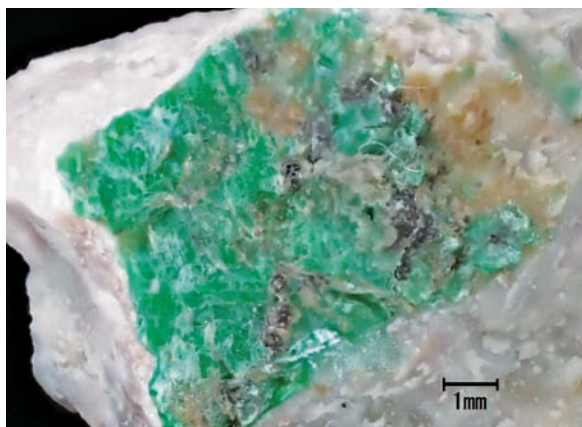
2017年4月に山口県で発見された鉱物が新鉱物として認定され、阿武石（あぶせき）と命名されました。山口県では初めての発見です。

鹿児島県でも二つの新鉱物が発見されています。一つはよく知られている大隅石で、1953年に都城秋穂氏によって鹿児島県垂水市咲花平で発見されました。濃い青～黒色をした六角の短い柱状の結晶で、主に流紋岩やデイサイトというマグマが冷えて固まった岩石に含まれています。もう一つは、原田石で、1982年に奄美大島の大和鉱山と岩手県の野田玉川鉱山の2か所のマンガン鉱床から発見されました。板状の結晶の集合で、鮮やかな緑色をしている鉱物です。

これらの鹿児島県を代表する貴重な鉱物は、当館でも大切に収蔵しています。



大隅石 (Osumilite)



原田石 (Haradaitite)

学芸室の窓から

7月上旬、企画展「世界のカブトムシ・クワガタムシ」が始まる数日前に、ヘラクレスオオカブトをはじめとする、世界のカブトムシとクワガタムシが博物館にやってきました。子供のころ図鑑で見た、あのカッコイイ虫たちを目の当たりにして、年甲斐もなく興奮してしまいました。

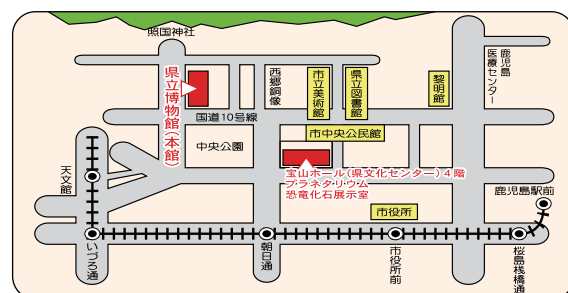


ヘラクレスオオカブト

企画展の開催期間中、これらの外国産カブトムシ・クワガタムシたちを飼育・展示したわけですが、これがなかなか大変でした。今回、飼育・展示した種類は熱帯地域に生息していることから、高温に強そうなイメージがあります。しかし、実際には標高の高い、涼しい場所に生息するため、鹿児島の気候は合いません。最適な温度は20℃～25℃程度で30℃を越えると死んでしまう場合もあるそうです。そのため、閉館後には飼育ケースの上に氷を載せて、夜間も快適に過ごせるようにしました。節電のためにクーラーを使用していない、我々の部屋とは大違いです。

職員よりも、快適な環境を準備した甲斐あって、無事に会期中の務めを果たしてくれたのでした。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080



ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>